

犬山市における子ども第3の居場所 「にじいろ寺子屋」 1年間のご報告



2023年6月18日

NPO法人シェイクハンズ

第3の居場所開設の経緯

2008年 「外国に繋がる子ども達の放課後の居場所」事業 開始

- ・ 県営楽田住宅 集会所で実施(毎週1回)
- ・ 2年後 楽田ふれあいセンターに移設(2013年より 市の委託事業)

・ 4年後  週1回では、とても学校についていけない!

2014年、自前で、マンション一室に「寺子屋」開設し、ほぼ毎日活動
2016年、旧楽田児童センターを(プロポーザルにて)犬山市より借用し、
「にじいろ寺子屋」をオープン

2022年4月、現在の児童センター2階に「にじいろ寺子屋」を移転
子ども第3の居場所としてオープン。

現在の実績 ① 日本語・学習支援の場として

- ・ 現在、毎週 月・火・水・金・土（随時）開設
- ・ 毎週木曜日 15時～21時 犬山市委託+自主事業として、「おかえりなさい塾」
- ・ 毎週日曜塾 10時30分～12時30分 犬山市委託事業として、「みんなの日曜塾」（大人・親子の日本語教室）
- ・ 随時 就学前支援（親子サロン・プレスクール）

現在の実績 ②

- 参加者

- 小学生 52人
- 中学生 21人
- 高校生 3人
- 就学前親子 13組

- 参加者

- 外国籍…63人
- 日本人…10人

- 生活保護家庭、準要保護家庭、ひとり親家庭
- 多子家庭、不登校、

これまでの出会い・事例から

A：乳幼児期に、一軒家に友達家族で大勢の暮らしだった子（日本生まれ）
→ 典型的なダブルリミテッド

B：小6で、ママの元（日本に）に呼び寄せた子、学齢超過に。
→ 言葉と学習の壁で、母国とを行き来し…のうちに

C：親がずっと日本語解せず → 気持ちを通じず断絶（子は日本語）
思春期にドロップアウト


D：パパ（日系ペルー）、ママ（フィリピン）の連れ子 → 虐待？


F：病気の母の通院時通訳と弟の世話 → ほぼ不登校
ヤングケアラー

G：行政窓口での情報が伝わらなかった → 1年以上不就学

十 親の不安定な就労のため貧困 + 家庭環境が複雑 + 生活環境の不整備

今、出会っている…

- 不登校
 - 家庭で、DVが疑われている子
 - 経済的困難を抱える家庭の子
 - 多子家庭の子
-  • 引きこもり、複雑すぎる家庭の子、場面緘黙の子

困難を重層的に抱えている家庭  シェルターの？

気づき：日本の子でも、取り巻く困難は同じ！！

- ・ 外国人家庭を通じて知った、子どもの多様な困難。
- ・ 外国人は、私達にとっては、見えやすい。なんでもあり！

保健センターや青少年センター、福祉課、学校現場などから
何とか、少しでも？

とりあえず受け入れる場が、現実にほかにない？！

困難を抱える子ばかりでは…

多様な子が、一緒に育つ過程が大切では？…

「子ども第3の居場所」として・・・

- 子ども第3の居場所 { 生活支援モデル
学習・生活支援モデル ◎
コミュニティモデル

目的：子ども達が、生き抜く力を育む地域の学びの場として。

行政やNPO、企業、市民の方々と協働し、誰一人取り残さない地域の
子育てコミュニティをつくる。

- ①どの国籍・どんな環境に置かれている子ども達でも、
誰もが安心し、安全に過ごせる放課後の居場所を作る事で、
自己肯定感を育て、子どもの未来を広げ、希望あるものにする。
- ②犬山市南部地域での「第3の居場所」ができる事で、他の地域・周辺でもこの事業が始まり、地域課題を地域で解決できる地域力が育つ。

主な取り組み ①

学習支援

宿題支援〔外国籍には、日本語を育てる事による学習意欲の向上〕

苦手教科指導

SNSの使い方

生活習慣づくり

掃除、食事準備・片付け、歯磨き習慣など

周囲と交わりながらの遊び（発達に多少凸凹のある子）

体験の場づくり

農業体験、動物飼育、星空観察、大学生との交流など











連携

犬山市地域協働課・犬山市子ども未来課（各子ども未来園）、保健センター
犬山市教育委員会（各小中学校）・犬山市福祉課・社会福祉協議会、
愛知県多文化共生推進室、愛知県国際交流協会、愛知県社会福祉協議会、
犬山市青少年センター、犬山市国際交流協会、一宮児童相談所

楽田地区コミュニティ推進協議会・市民活動支援センターの会、
あいち子どもアドボカシー学会、
犬山市レクリエーション指導者クラブ、おもちゃ図書館まごころ、

名古屋経済大学、愛知淑徳大学、犬山総合高校

各企業・機関【日本財団、（公社）日本フィランソロピー（大和グループ）、
（一財）タイム技研、愛知子ども応援プロジェクト、愛知子ども食堂ネットワーク、
中部経済連合会、住友理工、尾張北部日本語教育ネットワーク、各子育てNPO団体

課題

- 学力の向上が、見える化しにくい → ロングスパンで！
- 日本語学習と学校の勉強との間で、ジレンマ
- 居場所と学習支援の両立
- 保護者への理解と啓発
- 生活習慣・価値観の多様化
- 地域行事への参加ができない

- 資金不足、人手不足
- 個人情報壁、連携壁、偏見壁

今年度の新たな取り組み予定

- 地域子ども農業クラブ(仮称)の結成
地域の方々ともっと、溶け込みたい！ + 食育
- 夏休み自然体験
日頃できない、ダイナミックな自然体験により、
生きる力や柔軟な考えが、身に付いたら！
- して貰うばかりでなく、できる事は自分でやり、人を
助ける事を身に付けてほしい(ボランティア体験)

いろいろな人にもっと「居場所」に来てもらい、日常的に触れ合える
仕組みづくり(多様な人と、多様な関係性の中で)



手探りのなかでの運営ですが、

この先も、こんな子ども第3の居場所が

必要だと信じて・・・

ご清聴 ありがとうございます